

2025年11月25日

国立印刷局の工芸官による特別講義を12/2(火)開催

～日本銀行券と国立印刷局工芸官の技巧～



国立印刷局は、2025年12月2日（火）に京都精華大学（所在地：京都府京都市/学長：澤田 昌人）にて国立印刷局の工芸官の特別講義を実施します。京都精華大学での特別講義開催は、初となります。

【開催詳細】

日時：2025年12月2日（火）

13:00-13:30 特別講義「国立印刷局の事業案内」

13:30-14:30 凹版彫刻の実演（工芸官によるエングレーヴィングの実演）

14:30-16:00 凹版彫刻の実技指導（工芸官が学生にエングレーヴィングの実技指導）

受講対象：京都精華大学 芸術学部学生

場 所：京都精華大学（京都府京都市左京区岩倉木野町137）

対峰館 T-311

アクセス：

*JR京都駅から市営地下鉄 国際会館駅まで約20分 → スクールバスにて約10分

*阪急沿線から烏丸駅にて市営地下鉄に乗り換え、国際会館駅まで約16分 → スクールバスにて約10分

*京阪沿線から出町柳駅にて叡山電鉄に乗り換え、京都精華大前駅まで約18分（駅から徒歩すぐ）

特別講義の様子（2024年6月実施）



国立印刷局より

国立印刷局は、日本銀行券の製造をはじめ、官報、パスポートなど国民生活に密着した製品を製造している組織です。当法人は、明治4年（1871年）に大蔵省紙幣司として創設され、国民の皆様からの「信頼」に支えられ、令和3年に創立150年を迎えました。国立印刷局には、「工芸官」と呼ばれる専門職員が在籍しており、国民経済に不可欠なインフラストラクチャーである日本銀行券やパスポート等のデザインや原版製作は、「工芸官」が担っております。

国立印刷局では、令和4年度から国内の芸術系・美術系大学の学生を対象として、工芸官の高い技術と細密な彫刻を次世代に伝え継承すること、また、日本銀行券に付与している偽造防止技術を広く広報する目的として、特別講義を開始しました。令和4年度には2大学、令和5年度には6大学、令和6年度においては4大学と1専門学校で開催し、美術や芸術を学ぶ学生のキャリアプランの可能性と選択肢を提供する機会として実施しております。

国立印刷局が製造する日本銀行券などの原版作製では、現在でも工芸官による手仕事が中核をなしており、ビュランという金属の細密彫刻に適した専用の彫刻刀が用いられます。このビュランを使いこなすには熟練を要し、長い年月と根気が必要とされます。この講義は、国立印刷局の工芸官がどの様に緻密な画線を彫り進めているかを知ることができます。

このような取組は、日本銀行券に対する国民の信頼を維持するために必要な情報として、日本銀行券に付与している偽造防止技術等を外部に発信するとともに、国立印刷局が長年培ってきた工芸官の高い技術を国民の皆様に知って頂くことを目的とした、国立印刷局の広報活動の一環でもあります。

担当教員 京都精華大学 芸術学部芸術学部長 北野 裕之 教授のコメント

京都精華大学では「人間尊重」「自由自治」を基盤とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする人間の育成を使命の一つとしてきました。開学当初より国際的な視野で、「表現の大学として」「京都と世界をつなぐ大学として」、世界で活躍する表現者を育成しています。芸術学部造形学科版画専攻は設立当初より、版画と印刷がその本質として担う情報伝達メディアとしての「先端性」「国際性」「伝統性」を重視し、版画と密接な関係にある「紙」を重要メディアと捉え紙工房を設置。版画のみならず写真を含む多種多様なプリントメディア表現を全国に先駆け教育として実践してきました。

このたび国立印刷局との協働で行われる特別講義「日本銀行券と国立印刷局工芸官の技巧」では、エンゲーリングによる凹版彫刻技術についてご紹介いただきます。高度な技術を要するこの凹版彫刻技術は、その精緻で美しい表現により、多くの人を魅了し様々な可能性を切り開いてきました。表現とは豊かな発想や創造が、確かな表現力と技術により支えられ、新しい可能性を開き、世界に影響を与えていくものです。これから表現者が、この魅力ある技術を学び自身の表現の可能性を探求する機会となり、表現で世界を変えるためのきっかけとなることを期待しています。